

# 塵勞

芥川龍之介

青空文庫



或春の午後であつた。私は知人の田崎に面会する為に彼が勤めてゐる出版書肆の狭い応接室の椅子に倚つてゐた。

「やあ、珍しいな。」

間もなく田崎は忙しき間に、万年筆を耳に挟んだ儘、如何はしい背広姿を現した。

「ちと君に頼みたい事があつてね、——実は二三日保養旁、修善寺か湯河原へ小説を書きに行きたいんだが、……」

私は早速用談に取りかかつた。近々私の小説集が、この書肆から出版される。その印税の前借が出来るやうに、一つ骨を折つて見てはくれまいか。——これがその用談の要点であつた。

「そりや出来ない事も無いが、——しかし温泉へ行くなどは贅ぜいた沢くだな。僕はまだ臍ほぞの緒切つて以来、旅行らしい旅行はした事がない。」

田崎たざきは「朝日」へ火をつけると、その生活に疲れた顔へ、無邪気せんぼうな羨望せんぼうの色を漲みなぎらせた。

「何処どこへでも旅行すれば好いいぢやないか。君などは独身なんだし。」

「所が貧乏暇なしでね。」

私はこの旧友いささの前に、聊いささか私の結城ゆふぎの着物を恥ぢたいやうな心もちになつた。

「だが君も随ずるぶん分ぶん長い間あひだ、この店に勤めてゐるぢやないか。一体

今は何をしてゐるんだ。」

「僕か。」

田崎は「朝日」の灰を落しながら、始めて得意さうな返事をした。

「僕は今旅行案内の編纂へんさんをしてゐるんだ。まづ今までに類のない、大規模な旅行案内を拵こしらへて見ようと思つてね。」



# 青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1971（昭和46）年10月5日初版第5刷発行

入力校正・j.uitiyama

1999年2月15日公開

2003年10月7日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>)

で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。



# 塵勞

芥川龍之介

2020年 7月12日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>